

希少野生動植物保護回復事業計画の策定について（中間報告）

自然保護課

1 保護回復事業計画の策定種

種名：クビワコウモリ：*Eptesicus japonensis*

県希少野生動植物保護条例：指定希少野生動植物
体長約 5～6cm、体重約 10～12 g、前腕長約 4 cm。
夜行性で、飛翔性の昆虫類を食べている。



クビワコウモリ(標本)

2 策定の趣旨

クビワコウモリは日本固有種で本州中部に局所的に分布しており、長野県松本市の乗鞍高原で繁殖が確認されているが、他地域での繁殖場所などの詳細は不明である。なお、乗鞍高原における調査では、近年 20 年間では個体数が減少傾向にある。

非常に限られた繁殖地を保全する重要性は高いため、保護回復事業計画を作成し、種の保全を図っていく。

3 専門委員会における検討経過

(1) 委員

- 委員長 中村 寛志 (信州大学 名誉教授)
委員 辻 明子 (東信自然史研究会 代表)
" 福江 佑子 (NPO 法人 生物多様性研究所 あーすわーむ 理事)
" 藤田 卓 ((公財)日本自然保護協会)
" 中野 圭一 (環境省信越自然環境事務所 統括自然保護企画官)
" 富岡 弘一郎 (林野庁 中部森林管理局 計画課長)

(2) 開催状況

ア【第 1 回専門委員会】

開催日：令和元年 7 月 25 日 (木) 於：乗鞍自然保護センター
協力者：保護団体「クビワコウモリを守る会」 3 名

◎主な検討内容

- クビワコウモリの生態や個体数の変化、保護活動の取組みについて、「クビワコウモリを守る会」へのヒアリング
- コウモリ個体数の動向
 - ⇒ 2000 年前後の 300 頭程度がピーク。その後、減少傾向にあり近年は 100 頭程度。
 - ⇒ また近年、クビワコウモリがねぐらを分散しており、小集団化している。原因は不明。
- 個体数の変動要因として考えられる環境要因
 - ⇒ 餌(昆虫)量の減少、ねぐらや出産場所に適した場所(樹洞や人工施設)の減少が考えられる。
- 個体数の変動要因として考えられる社会要因
 - ⇒ コウモリが多数集まることで糞尿の臭い、糞尿による汚れが目立ち、宿泊客が嫌がる。
 - ⇒ クビワコウモリがねぐらとして利用している施設のオーナーが、コウモリが出入できないように改修。

◎委員からの意見

- 近年、クビワコウモリが減少している理由として森林(樹洞)の減少が挙げられているが、乗鞍高原周辺の国有林の7割が天然林で、その天然林の林齢は100年生以上が8割。また、そのままの姿で維持する方針になっている(生物群集保護林)。減少との因果関係は薄いのではないかと。
- コウモリの減少要因を特定することは重要。基礎的な調査をする必要がある。

◎保護団体からの意見

- 乗鞍高原での公共施設の建替え時には、コウモリ用の巣箱(バットボックス)を併設してほしい。
- 乗鞍自然保護センターに併設しているバットハウスは、コウモリの学習施設としての役割も果たしている。

イ【第2回専門委員会】

開催日：令和元年10月18日(金) 於：乗鞍自然保護センター
協力者：「クビワコウモリを守る会」3名

◎主な検討内容

- 乗鞍高原周辺の国有林、民有林の状況について(民有林は後日報告)
 - ⇒国有林は7割が天然林、併せて生態系保存林になっており、今後も伐採の予定はない。
 - ⇒民有林66%が天然林。樹種は広葉樹が60%。所有者は市町村・集落等が86%。
林齢は40~100年生が88%(60~79年生が51%)。保安林率は50%。
- クビワコウモリが採餌している蛾類は、どのような環境に生息しているのか(後日報告)
 - ⇒乗鞍高原で広く分布している広葉樹などを餌とするガを多く採餌しており、一方で羽アリなども採餌しているため、特定のガや昆虫を好むのではなく、その場所に生息している飛翔性の昆虫類を採餌していることが示唆された。
- クビワコウモリが好む巣箱(バットボックス)は、どんな形状や環境なのか
 - ⇒現段階では不明。既に保護団体が何種類か試しているが、どのタイプのバットボックスが好まれるかの結論はまだ出ていない。

◎委員からの意見

- 特定の家屋にねぐらが集中しないように、どうやって分散させるかを考える必要がある。
- ねぐらが複数個所あることは重要。何かあってもクビワコウモリが移動することができる。
- 保護回復事業計画の対象区域は、クビワコウモリが新たに見つかった場合、その場所も含まれるような文言にした方が良い。

◎保護団体からの意見

- クビワコウモリは一つのねぐらをずっと使い続けることはない。常にねぐらを変え、複数個所を転々としている。沢山のバットボックスを設置することが重要である。

4 今後のスケジュール

時 期	内 容
11月25日	長野県環境審議会へ中間報告
12月	計画(素案)への意見募集(パブリックコメント)
2月	第3回専門委員会
3月	長野県環境審議会答申・計画決定・公表